

3・11から走り続けた一年

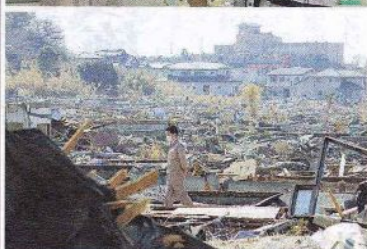
小田原市長 加藤憲一

あの3月11日から、1年が過ぎました。発災15分後に災害対策本部を立ち上げて以降、「いのち」のことを考え抜き、走り続けた一年でした。発災直後から市長として取り組んだ主な対応策を振り返るとザッと次のようになります。

市内の被災対応、避難所開設、帰宅困難者受け入れ、被災地への

支援活動開始、被災者の受け入れ準備、計画停電への対応、被災地訪問とボランティア派遣の開始、放射能汚染への対応、茶葉に対する放射線量基準への異議申し立て、モニタリングポストの増設要求、「いのちを守る小田原推進会議」の立ち上げ、地域防災計画の全面改訂作業。小田原における津

実行!



4月9日、被災地入り

震災発生から1ヵ月後、支援物資とともに尊徳先生の縁が深い福島県・相馬へ。津波の被害を目の当たりにし、小田原ができる範囲の継続的な支援を誓う

波避難計画づくりへの着手、津波避難ビルへの協力要請、海拔表示マップの作成と配布。再生可能エネルギー地域自給の検討開始。市内各地への海拔表示板の設置。相馬市との防災協定締結、職員の継続派遣、報徳関係市町村の子どもたちへの支援行動準備、相馬市の皆さんとの交流の深化、「報徳の森プロジェクト」を通じた木材提供と産業再生支援・・・。

そして、今もお、様々な取り組みによる「いのちを守る地域自給圏」作りは、着実に進んでいます。いつ起こるかも知れない大災害に備え、この歩みを決して止めてはならないと私は考えています。

おだわらを拓く力

tel:0465(21)5260 小田原市栄町2-13-1-2F

あなたが主役で
動かす市政

1口1,000円

ASU資金にご協力をおねがいします